

# たまねぎ機械化体系 栽培マニュアル

令和8年産版



令和7年3月

富山県農林水産部農業技術課  
広域普及指導センター

## 1 栽培こよみ

月 作型 \ 月	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
秋まき 初夏どり	○○	△	△									

は種 (9/1~9/5) 定植 (10/15~10/31) 追肥①追肥②追肥③ 収穫 (6中~)

## 2 推奨品種

### ○ターザン（中生）

球型は地球型で、揃いは良い。首締り・玉締りは特に良い。光沢ある赤銅色に仕上がる。

## 3 育苗

### (1) は種

#### 【必要資材】

- ・448穴セルトレイ 約50枚/10a
- ・コート種子 約23,000粒/10a
- ・育苗培土 約2.5袋/10a (ソリッド培土タイプT・N)

### (2) 育苗管理

#### ①箱並べ後のかん水

- ・かん水の水源は、できる限り地下水又は水道水を使用する。
- ・箱を並べ終えたら、時間をかけてたっぷりかん水する (約800ml以上/箱)。
- ・一度に多くの水は入らないので、何回かに分けて(2~3回)かん水する。  
※ かん水後は、必ず箱の裏から水がしみ出していることを確認する。  
(かん水量は、かん水前後の箱の重さを測ることで確認できる)
- ・自動かん水の場合、手かん水で乾いているところを手直しする。  
※ 乾いているところは発芽むらとなるので注意
- ・手かん水の場合、目の細かいシャワーホースを通しかん水する。
- ・かん水開始時は箱の無い場所で噴霧し、かん水が霧状になると、水温を確認してからかん水を開始する。
- ・かん水後、種子が表面に出た場合は、覆土をかける。

## ②水管理の目安

床土の乾き具合を朝と昼前（11時頃）に確認し、かん水を実施する。

### 【育苗前半】（出芽～出芽後4週間）

高温時期でもあり、根量も少ないため、乾燥と湿害の両方に注意する。

- ・晴天時・・・朝、昼前の2回行う。
  - ・曇天時・・・朝1回行う。
  - ・雨天時・・・土の状態を確認し、乾いていれば朝1回行う。
- ※発芽～2週間頃までの1度の多かん水は、根腐れになるので避ける。  
※曇雨天日の後の晴天日は、萎れやすいので注意する。

### 【育苗後半】（出芽後4週間～定植時）

生育が旺盛となるので、徒長に注意し、やや乾燥気味に管理する。

- ・晴天時・・・朝はたっぷり、昼は乾いていれば行う。
  - ・曇天時・・・土の状態を確認し、乾いていれば朝1回行う。
  - ・雨天時・・・土の状態を確認し、乾いていれば朝1回行う。
- ※トレイ周辺部が乾燥しやすく、不揃いの原因となるので注意する。

## ③換気

- ・育苗中は、ハウス内の温度を下げるため、風通しを良くするため、出入り口やサイドを開けたままにする。基本的には昼夜を問わず前後・ハウスサイドを常時開放とし、強風時の風上側や、雨が強くハウス内に雨が吹き込む場合のみ閉める。

## （3）定植に向けた苗の仕上げ

### ○目標とする苗の姿

- ・本葉3枚
- ・葉鞘径（苗の太さ） 3.5～4mm
- ・草丈12cm（切り揃え後）
- ・根鉢がしっかりと形成されている。  
(根が鉢の上から出るくらい)  
を完成苗の目標とする。
- ・育苗日数は、箱並べから50～60日とする。

## 4 ほ場の選定と準備

たまねぎの収量は、ほ場の排水性の良し悪しによって大きく左右されるため、ほ場選定やほ場準備を行う。

## 5 本ぼ管理

### (1) 耕起及びうね立て

#### ①定植前の耕起とうね立て

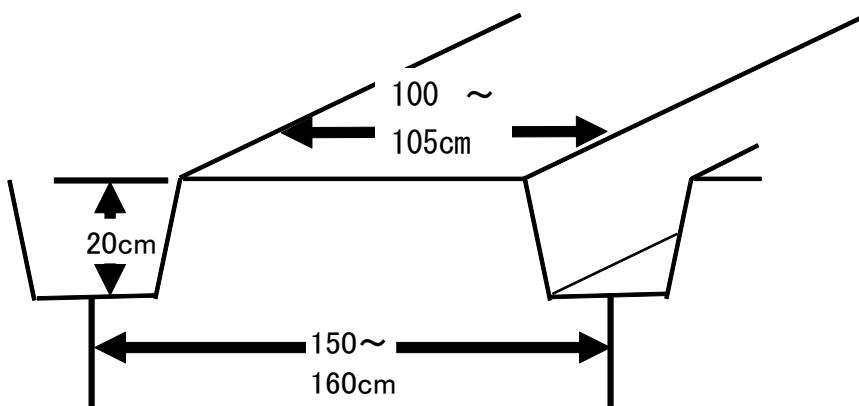
定植前にはほ場が乾いたら、なるべく早い時期に堆肥や土壤改良資材を散布し、できるだけ低速で深く耕起する。その後、基肥を施用し、耕起してうね立てを行う。うね幅は150~160cmとし、20cm以上の高うねとする。

耕起からうね立てまでは1日で行う。

※耕深が浅いと高うねにならないため、耕起は2回行う。

#### ②うね立て

- うね幅150~160cm、うね高さ20cm以上、うね天板の幅100~105cm（下図 参照）
- 定植時施用の殺虫剤「**ダイアジノン粒剤5（3~5kg/10a）**」をうね立て直前に散布してからうね立てを行い、土壤によく混和する。



### (2) 定植

#### ①定植時期 10月15日～10月31日

#### ②苗の消毒

収穫時の乾腐病発生防止のため、定植前に

「ベンレート水和剤（50倍液を0.5L/トレイ）」を灌注する。

#### ③栽植方法

- 条間24cm、株間10cmの4条植えとする。
- 植付け深さは、葉鞘の半分程度が埋まる深さ1.5~2cmとする。

#### ④補植

欠株が発生したところは補植し、栽植本数を確保する。

## 6 「べと病」予防のための夏期湛水

たまねぎ「べと病」予防には、水温が高まる時期（目安：7月下旬～9月上旬）を含む50日間以上の「夏期湛水処理」が有効であるため、次年度まで作付け予定のない圃場では、たまねぎ収穫後に夏期湛水を行う。

### <夏期湛水処理の手順>

- ① たまねぎ収穫後、速やかに耕起する。
  - ② 入水し荒代をかく。  
※入水開始時に圃場に雑草の発生が見られる場合は、除草剤散布（ザクサ液剤又はバスタ液剤等）を行い、雑草を枯らしておく。
  - ③ 湛水状態とする。  
※湛水期間は、（目安）7月下旬から9月上旬を含む50日間以上とする  
※常時5cm以上の湛水状態を保つ
- ・斑点米カメムシの生息場所とならないよう雑草が繁茂しないように努める。



夏期湛水処理

### 本マニュアルの利用に当たっての留意事項

本マニュアルを無断で複写・転載または引用することは禁止いたします。

本マニュアルの複写・転載または引用に当たっては、必ず作成者の承諾を得てください。